

## 第93回 まちづくり夜楽塾記録

### カンボジアの子ども図書館寄贈活動 ～子供たちの笑顔と目の輝き～

小杉 太一さん( 社団法人 シャンティ国際ボランティア会 )  
平成 22 年 2 月 19 日 ( 金 )  
19:00 ~ 20:30

カンボジア王国に図書館を寄贈し、国家復興勲章第一等と感謝状を頂いた小杉太一さんに講演していただきました。

#### 今日の講座の情報はどのようにして知りましたか？

広報を見た ..... 7 名  
新聞を見た ..... 2 名  
チラシを見た ..... 5 名  
SVAのホームページから ..... 0 名  
以前の講座に来たときに ..... 2 名                      その他 ..... 4 名

#### カンボジア王国について

皆さんはカンボジアというと何を連想されますか？・・・アンコールワット？

位置・・・東南アジア、周りにはラオス・タイ・ベトナムがあり飛行機での直行便は無く、バンコク経由（6時間位）プノンペン（1時間位）、香港経由プノンペン、ホーチミン経由プノンペンになります。

王様が居り平均寿命 57 歳

人口 1300 万人位（プノンペンは 130 万人位）

住居は高床式

通貨はリエル（100 リエル 3 円）旅行者は通常支払いはドル、お釣りはリエル

国民一人当たり GDP・・・774 ドル（日本は 34000 ドル）

トイレ、電気、水道等 7 割近くが無く衛生状態が非常に悪い。

交通は汽車が一路線のみ、市内循環するバスは無く、四輪タクシー、バイクタクシー、タクシー等を使います。プノンペン市内にはほとんど信号はありません。

乳児死亡率は 6% の割合（日本は 0.4%）、5 歳までの死亡率は 14% の割合（日本は 0.6%）、14 歳以下の人口の割合は 45%、人口の半分が子どもの為、教育設備を整える資金が無くよその国からの援助で建てられています。カンボジアの公務員の給料が月 30 ドルと生活費は 4 人家族で 120 ドル掛かり 90 ドルが赤字の生活をしている状態です。子供達は生活の為に働かなくてはならず、学校に行きたくても行けない状態です。

工業等一次産業（鉄工、製造業）は無く、農業、水産業が 8 割を占め、輸出は縫製ですが、made in カンボジアでは売れない為、カンボジアから他国に出し、他国名を使って輸出しているようです。そのような中で国の予算では学校を作ることが出来ず、村任せになります。貧乏な村は学校を作れず、子供達は字を読むことさえ出来ません。学校は荒れ果て、屋根が無く、樹や草で覆っただけの建物で、トイレ、水道等は無く、あったとしても使い方を知らない子供達です。子供達の将来の夢を聞くと「先生になりたい」と言う子が多いですが、実際は学校に行けず、スラム街（プノンペンに 700ヶ所位、約 30 万人）に住み、ゴミ収集車のゴミを待ち、取り合い、拾い生活をしているのです。

学校があっても図書館は無いので、娯楽の無い村人は SVA の移動図書館車が来るのを心待ちしています。このチャンスを逃すと絵本や紙芝居は一生見ることが出来ないかもしれません。普段本などは見たこともなく先生が読み聞かせをすると児童が瞬きもせず、じいっと見つめる姿を見て、自分も何かお手伝いが出来ればと思いました。

## どうしてカンボジアに図書館を寄贈したのか

会社員時代にタイに滞在した事があり 10 年前「東南アジアの窮状を救いたい」と、シャンティ国際ボランティア会の会員になりました。翌年のカンボジアの研修旅行で荒れ果てた小学校を見て「勉強の出来る環境を整えてあげたい、絵本の読み聞かせなら楽しく学べるのでは」と強く思い 2001 年から毎年寄付をして絵本を買う資金にあて、絵本は約 300 冊になりました。そのような中、「絵本の読み聞かせが出来る教師をカンボジアに育てたい」「今困っている人に、自分のお金を生きているうちに有効に使ってもらおう」と思い立ち、シャンティ国際ボランティア会に申し出、カンボジア政府に図書館の寄贈をすることにしました。

若い時から老後の為にと貯金をしてきましたが、家族が亡くなり、残す親族も居ない為、役立てて欲しいと考えました。

図書館は教員になる為の養成所、研修施設を兼ねており、本の読み聞かせを子供たちにしています。政府は、この図書館をモデル図書館とし、これからの建設の参考としました。書棚には 1600 冊余 3 割は絵本が占めます。養成学校の教員たちが児童に読み聞かせをしている光景を昨年見て、食い入るように絵本を見るまなざしに「図書館が現地でいかに必要だったのか分かった」と感激しました。

図書館は八角形の屋根、レンガ製で、養成学校の学生や付属小学校の児童、約 600 人が足を運んでいます。書棚、ビデオカメラ、デジタルカメラ、デスクトップコンピューター、プリンター、机、テレビ一式を寄贈しました。

## 贈呈式

贈呈式には児童、学生、教員、村人、600 人程が集まり、事務次官補、県知事、僧侶が参列、式典が行われ、教育省から感謝状と国家復興勲章第一等を頂きました。図書館には日本の小杉太一が、この図書館を寄贈した看板が永久に掲げられます。寄贈証明書にサインをし、記念植樹をして、式典が終了しました。

日本から持参したカレンダー・法被・けん玉・ハーモニカ等を披露して日本を紹介しました。

## 地雷について

カンボジアは内戦があり、その時に埋められた地雷がまだ沢山あります。

ポルポト時代（1970～1991）1975～1978 年にかけては特に悲惨で教育文化、宗教活動などは完全に否定され禁止されました。近代教育を否定し労農政策を進め、教員などの知識に弾圧を加え 100 万人以上もの人が虐殺されました。書物は知識を与える為、書籍類を没収、お経の本までも取り上げ、焼却してしまいました。

図書館を建てるのに地雷の確認の為に半年程掛かり、作る時は 1 個 300 円から 400 円で出来る地雷が、埋めた物を取り出すのには 10 万円も掛かります。まだ数えきれない程、埋められており（400～500 万個）全部取り除くには 100 年位掛かるそうです。

地雷の模型をお持ちいただきました。

（地雷には踏むと爆発、紐がついていて紐に引っかかると爆発、遠隔操作で爆発するものがあるそうです）

## 社団法人 シャンティ国際ボランティア会の活動

- ・ 図書館活動・学校建設活動・奨学金制度・阪神大震災・福井の水害・新潟地震・三宅島の噴火・ジャワ島の地震・スマトラ沖の津波・海外緊急救援活動等をしています。
- ・ 不要になった本やCDを寄付していただき、売り、収益として活動資金にしています。
- ・ 会では寄付をされたお金を誰かにあげるのではなく、スタッフが現地まで行き、仮設テント・食料の配布・文房具の配布等・必要なものを現地の方と相談し手配する活動を会員がしています。

## 質疑応答

Q 自分の将来よりも目先の困っている人を助けたいとお話でしたが、思っただけでも行動を起こすというのはなかなか難しいと思います、なぜ行動をおこせたのか一番のきっかけは何でしょうか？

A 自分は家族を亡くしてから生きがい探しをはじめ、自分はどんな生き方をしたいか、何か誰かの為になることをしたい、現在も模索中ですが、生きているうちに役立ちたいと感じていました。そこからボランティア活動が始まりました。